

倫理（学）的に考えること

2024年9月4日 安全目標に関する検討委員会
慶應義塾大学法学部 大屋雄裕

倫理学—善いとはどのようなことか？《→補足1》

善悪を決める基準に関する問い（何が善いことか、ではない）

典型的な理論……功利主義と義務論《→補足2》

功利主義（utilitarianism）……典型：ジェレミー・ベンサム

特定の価値（快樂／苦痛）が多くなること＝善、減ること＝悪

さまざまな他の価値（美・正）もその価値に換算される＝一元説

価値の増減＝結果のみに注目（動機を問題にしない）……帰結主義（consequentialism）

義務論（deontology）……典型：イマニュエル・カント

為すべきこと（善）・避けるべきこと（悪）の基準がある

どのような状況でも・誰にとっても善悪は変わらない

「世界滅ぶとも正義行なわるべし」

結果ではなく動機が問題になる

どちらを取ってもだいたい問題が起きる

例) トロリー問題の変形

このままだと暴走する路面電車が保線作業員5人を轢いてしまう。

跨線橋から太った男を線路上に突き落とすと彼が死ぬ代わりに路面電車は止まる。

義務論……確実な死を太った男に強いることは許容されない → 5人が死ぬ

功利主義……一般的には躊躇なく突き落とす／男の属性によって変わる

eg. 太った男の年収が5000万円で保線作業員の合計が1500万円だったら？

現実にはハイブリッド型が多い

eg. 自動運転車に対する事前指示

急ブレーキで乗客1人を確実に殺すか、通行人5人を確率的に轢くか。

義務論……確実な死を避けて確率的に大量の死を生じさせてしまう

功利主義……乗客の属性、技術普及の社会的メリットなどを算入する可能性

実際には……生命の計算は不可避だが、生命の数のみを対象にする

NUREG-0880: no death attributable to nuclear power plant operation will ever be "acceptable" in the sense that the Commission would regard it as a routine or permissible event. We are discussing acceptable risks, not acceptable deaths.

定期的に起きあるいは許容可能な出来事と委員会が考える意味において原子力発電所の運転に帰される死は決して「受容される」ことはない。我々は受容可能なリスクについて議論しているのであり、受容可能な死についてではない。

確実な死を特定の人間に割り当てること → 許容されない = 義務論的

eg. ソ連原子力潜水艦の原子炉修理 (K-219、1986)

それ以上についてはリスク・ベネフィットのバランスが許容される = 功利主義的

契約論による正当化は可能か? ……世代間正義 (intergenerational justice) 《→補足3》

正しいことが分からない場合 → 民主的な合意形成に委ねる

合意されたなら (皆が正しいと考えているので) 正しいことにする

典型: 嫌忌施設の立地

NIMBY-ism (Not In My Back Yard)

代償措置の提示 → 住民による受け入れ → 契約としての正当化

eg. 東京ゴミ戦争と世田谷区千歳清掃工場 (温水プール併設)

高レベル放射性廃棄物の地層処分……遠い将来世代まで続く影響

同時代を生きていない → 民主的な合意形成は不可能

将来世代の利害を代弁する現行世代による民主的決定、でいいか?

非同一性問題 (デレク・パーフィット)

将来世代の存在と利害自体が現行世代の決定により影響を受ける

理論的には解決不能という見通しで解決

補足1：善、正、そして正義

善 (good) ……ある行為・存在の道徳的価値

正 (right) ……ある行為の倫理的評価

一般的には善いことをするのが正しい ←→ 例外もある

「しっかりせよ」と抱き起こし……安心させるために嘘をつく（悪だが正？）

善・正が個々の行為・存在の属性であるのに対し、正義 (justice) は社会の属性

「ふさわしいものをふさわしく」

個々の属性に対応した処遇が為されているかを問うもの

例) 働きに応じた賃金が払われているか、万人に等しく人権が保障されているか
ふさわしさの基準が常に問題になる

補足2：それ以外の道徳理論

徳倫理学 (virtue ethics) ……どうすれば善い人間としての徳を身に付けられるか

特定の基準ではなく適切な素養のある人間が弾力的・適切に判断すべきと考える

一つの典型=儒学……五常（仁・義・礼・智・信）の修得者による統治

現代の民主政とは相性が悪いが、オンブズマン制度にはこの側面も

契約論 (contractualism) ……何が善かの基準はわからない → 合意による基礎付け

典型：社会契約論……「この世界の約束」を事前に全員で議論する

（実際には議論できないので、仮設的に合意を想定する）

現代の民主政にはこの側面……何が正しいかを決めるのが選挙

補足3：世代間正義に関する用語

現行世代……いま生きていて政治的意思決定に関与できる人々の集合

将来世代……いまは政治的意思決定に参加できない、将来に生きる人々の集合

近い将来世代……現行世代と生きている時間が重なる

遠い将来世代……現行世代と重なる時間が存在しない

過去世代……すでに行なった政治的意思決定の影響を現在まで及ぼしている